

令和8年度全国学力・学習状況調査の実施に向けて

総合教育政策局参事官（調査企画担当） 付学力調査室

目次

1. 令和8年度全国学力・学習状況調査の概要	… p.3
2. 質問調査の改善について	… p.5
3. 中学校英語について	
(1) CBTの改善ポイント	… p.6
(2) 返却・公表の内容とスケジュール	… p.7
(3) 「聞くこと」「話すこと」調査の概要	… p.8
(4) 「聞くこと」調査等の具体的な実施モデル：時間割例	… p.9
(5) 「話すこと」調査の具体的な実施モデル：時間割例	… p.10
(6) CBT実施に向けた事前準備	… p.11
(7) 特別な配慮	… p.15
4. 小学校児童質問調査の実施に向けた事前準備について	… p.18
5. 学校外からの参加について	… p.19

1. 令和8年度全国学力・学習状況調査の概要

調査事項・日程

(中) 英語は令和5年度以来の実施。

	調査事項		方式	日程	
				通常実施 (※1)	後日実施 (※2)
教科調査	(小) 国語・算数 (中) 国語・数学		冊子による 筆記方式	4/23 (木)	4/24 (金) ~ 30 (木)
	(中) 英語	聞く・読む・ 書くこと	オンライン (MEXCBT)	4/20 (月) ~ 23 (木) 予備日: 4/24 (金)	4/27 (月) ~ 5/1 (金) (学校外でオンライン実施可)
		話すこと		当日実施: 4/24 (金)・27 (月) (全国から500校抽出) 期間内実施: 4/28 (火) ~ 5/29 (金) (学校外でオンライン実施可)	
質問調査	(小) 児童質問 (生活習慣、学習環境等)		オンライン (MEXCBT)	4/24 (金) ~ 5/8 (金)	調査実施日翌日 ~ 5/8 (金) (学校外でオンライン実施可)
	(中) 生徒質問 (")			4/20 (月) ~ 23 (木) 予備日: 4/24 (金)	4/27 (月) ~ 5/8 (金) (学校外でオンライン実施可)
	学校質問 (指導方法、条件整備状況等)		オンライン	4/1 (水) ~ 17 (金)	

(※1) 英語及び児童生徒質問の調査実施日は、通常実施の期間から各学校の希望を踏まえて事前に指定する日とする。

(※2) 英語及び児童生徒質問について、後日実施（英語（話すこと）にあつては期間内実施）の期間は、登校困難、欠席、技術的トラブル等の事情に応じ、**学校外（自宅、院内学級、教育支援センター等）**でオンライン実施可。

令和8年度調査に関する実施要領の主な特徴

- ◆ 「令和7年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領」（令和6年12月23日付け6文科教第1467号事務次官通知別紙）で別に定めることとしていた、「全国学力・学習状況調査の調査結果の取扱いの改善等について」（令和7年6月6日付け7文科教第507号総合教育政策局長通知）における国による調査結果の公表の取扱い等について、本実施要領に定めた。
- ◆ 中学校英語に関する調査をCBTで実施し、調査結果をIRTスコア・バンドで示す。
CBT・IRTの意義を最大限反映させ、児童生徒一人一人の学力・学習状況が細やかに分かる結果の示し方とする。
- ◆ 英語（「話すこと」を除く。）及び児童生徒質問調査については、調査実施日（予備日を含む。）にあっては学校での実施とし、後日実施期間にあっては学校外での実施も可能とする。
英語「話すこと」については、当日実施校にあっては学校での実施とし、期間内実施校にあっては学校外での実施も可能とする。
- ◆ 引き続き、障害のある児童生徒や日本語指導が必要な児童生徒に対する配慮を可能とする。

英語の調査に関する留意事項

（時間割モデル関係）

- ◆ 3技能の調査は、「読むこと」「書くこと」で50分程度、「聞くこと」及び生徒質問調査で50分程度とする。「聞くこと」調査では、ヘッドセットのほか、授業等で利用する使い慣れたイヤホンも使用可。ヘッドセット・イヤホンの保有状況に応じてグループを分ける。
- ◆ 「話すこと」調査は20分程度とし、ヘッドセットを使用する。ヘッドセット、ネットワーク環境等の状況に応じてグループを分け、分散しての着席で実施する。

（結果返却・公表関係）

- ◆ 学校・教育委員会に対する結果返却は、7月（3技能）と秋（話すこと）の2段階で行うことを想定。
- ◆ 国による結果公表は、7月の全国データについては、「話すこと」当日実施校500校の結果により、4技能全体の分析結果を公表し、秋の都道府県・指定都市別データについては、4技能総合のIRTスコア平均やIRTバンドの分布を公表する方向で検討。

2. 質問調査の改善について

全体の方針

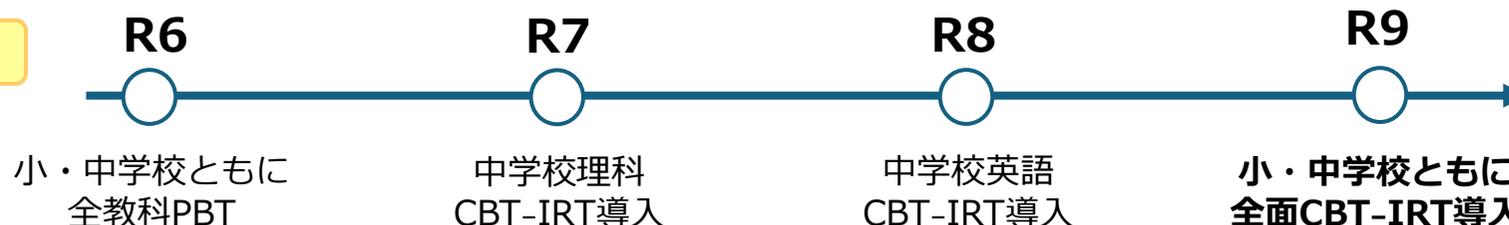
児童生徒質問調査の質問項目の目的に応じ、②の項目をランダム方式で実施（ランダムに選ばれた一部の項目のみを回答）

目的①：児童生徒一人一人の指導に生かすための項目（＝悉皆で調査すべき）

目的②：国全体の傾向を把握し、政策形成に生かすための項目（＝ランダムでも調査目的を達成）

全国学力・学習状況調査（悉皆調査）のCBT化スケジュール

教科調査



質問調査



ランダム方式の項目の結果返却について

令和7年度の試行では、ランダム方式の項目の結果は、もっぱら国全体の傾向の把握に利用された。教育委員会・学校に提供する回答結果集計データの返却の在り方については、さらなる検討中。

3. 中学校英語について

(1) CBTの改善ポイント

CBT調査の確実な実施

① 試行検証・令和7年度理科CBTを踏まえた改善

- ◆ 当日のトラブル等で調査ができなかった学校が再度取り組む事ができるように**予備日を設定**。
- ◆ ネットワーク等の負荷を小さくするため、**英語「話すこと」の実施期間を1か月強にして分散実施**。
- ◆ ヒューマンエラーが起こりやすい局面（**問題配信、解答データ送信**）や、**フィルタリングソフトの設定見直し**による改善事例等の周知。

② 音声など解答データの確実な取得

- ◆ 英語「話すこと」について、前回は一定時間経過により強制遷移する設定だったが、**解答が終わり次第、手動で次のページに進む方式**とする。
- ◆ 万が一**提出できなかった生徒の解答データについても出力して採点**できるように、MEXCBTの機能改善を実施。

③ 「聞くこと」の実施方法の変更

- ◆ 英語「聞くこと」について、前回はCDを使用した**ヘッドホン・イヤホンの個別使用**により実施する。

CBT・IRTを生かした学びへの還元

生徒の到達状況・課題の適切な把握 及び 個に応じた指導の支援

- ◆ 一人一人の学力の状況を正確に把握することに留意した出題とした上で、今まで以上に多くの問題を使用し、**幅広い領域・内容等**から調査。
- ◆ 返却できるものから結果の提供を行い、**7月頃に英語3技能の結果、秋頃に英語「話すこと」の結果、の2段階で返却**。
- ◆ IRTバンドごとの解答状況の特徴を分析した**G-P分析図や、授業アイデア例を提供**。
- ◆ 解いていない問題も含め、全ての公開問題について後日MEXCBT上で取り組むことを可能とする。
- ◆ **タイピングの習熟度状況の簡便な把握等**を検討する。

(2) 返却・公表の内容とスケジュール

返却

生徒個人や学校・教育委員会への結果返却は、①7月に「話すこと」を除く英語3技能の結果、②秋頃に「話すこと」・英語4技能の結果、の2段階で返却します。

公表

国による結果公表は、令和7年度と同様の3段階とし、①7月当初から、4技能の全国値や分析結果を公表します。また、③都道府県別データには、話すことの解答状況も含めます。

全体	返却		公表
	個人	学校・教育委員会	
7月中旬 ・学校返却① ・結果公表①	・公開問題(3技能分)の解答状況	・公開問題(3技能分)の解答状況 ・IRTスコア・バンド分布(3技能総合)	公表①:正答率・IRTバンド分布などの全国平均 ・公開問題(4技能分)の正答率【全国値】 ・IRTスコア平均・バンド分布(4技能総合)【全国値】 ※比較用の参考情報として、IRTスコア平均・バンド分布(3技能総合)【全国値】の公表も検討。
7月下旬 ・教委返却①		・公開問題(3技能分)の解答状況 ・IRTスコア・バンド分布(3技能総合)	
7月末 ・結果公表②			公表②:全国データに基づく分析 ・IRTバンド(4技能総合)に基づくG-P分析図
秋頃目途 ・学校・教委返却② ・結果公表③	・公開問題(話すこと)の解答状況 ・IRTバンド(4技能総合)	・公開問題(話すこと)の解答状況 ・IRTスコア・バンド分布(4技能総合)	公表③:都道府県別データに基づく分析 ・公開問題(4技能分)の解答状況【都道府県・指定都市別】 ・IRTスコア平均・バンド分布(4技能総合)【都道府県・指定都市別】

※具体的日程・内容については、実際の採点・集計の状況等を踏まえて決定予定。

(3) 「聞くこと」「話すこと」調査の概要

<「聞くこと」「話すこと」の実施について>

- 中学校英語「聞くこと」に係る調査時間は、生徒質問調査と合わせて50分程度とします。各学校のヘッドセット保有数・イヤホン活用数によって、グループを分けて実施します。➡実施モデルはP.11
- 中学校英語「話すこと」に係る調査時間は、20分程度とします。各学校のヘッドセット保有数や教室の確保状況によって、グループを分けて実施します。➡実施モデルはP.12

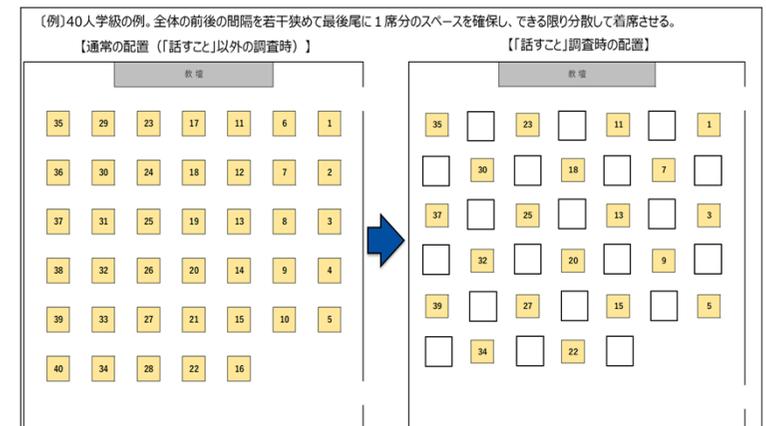
<ヘッドセット・イヤホン等の活用について>

- 中学校英語「聞くこと」調査では、文部科学省から配布するヘッドセットを使用いただくか、学校で保有するイヤホンや生徒個人が普段授業等で利用している使い慣れたイヤホンを使用いただくことも可能です。
- 中学校英語「話すこと」調査では、文部科学省から配布するヘッドセットに加えて、学校で保有するヘッドセットを使用いただくことも可能です。
(生徒個人が所有するヘッドセットの使用は基本的には想定していませんが、個人の事情等を鑑み、教育委員会・学校判断により使用していただいても問題ありません。)

<「話すこと」調査の教室配置について>

- 中学校英語「話すこと」の調査は、近くの生徒の解答が聞こえたり、端末に他の生徒の解答が録音されたりしないよう、出来る限り分散して着席させる必要があります。(【教室配置例】参照)

【話すことを実施時の教室配置例(2グループの場合)】



(4) 「聞くこと」調査等の具体的な実施モデル：時間割例

<考え方>

各学校のヘッドセット保有数・イヤホン活用数によって、以下のいずれかで実施いただくことになります。

【実施モデル①】グループに分けずに実施（ヘッドセット・イヤホンを調査対象生徒全員分保有している場合）

【実施モデル②】調査対象生徒を2グループに分けて実施（調査対象生徒の1/2分を保有している場合）

【実施モデル③】調査対象生徒を3グループに分けて実施（調査対象生徒の1/3分を保有している場合）

<時間割例>

【実施モデル②：調査対象生徒を2グループに分けて実施（調査対象生徒の1/2分を保有している場合）】

★グループA

	○限目（50分）			△限目（50分）	
準備等 （10分）	英語「聞くこと」・生徒質問調査 （50分程度）		休憩 （10分）	英語「読むこと」「書くこと」 （50分程度）	

★グループB

	○限目（50分）			△限目（50分）	
準備等 （10分）	英語「読むこと」「書くこと」 （50分程度）		休憩 （10分）	英語「聞くこと」・生徒質問調査 （50分程度）	

※休憩前後でヘッドセットを交換

 : ヘッドセット使用場面  : ヘッドセットの流れ

【実施モデル③：調査対象生徒を3グループに分けて実施（調査対象生徒の1/3分を保有している場合）】

★グループA

	○限目（50分）				△限目（50分）	
準備等 （10分）	英語「聞くこと」 （20分程度）	ヘッドセット 交換	生徒質問調査 （20分程度）	休憩 （10分）	英語「読むこと」「書くこと」 （50分程度）	

★グループB

	○限目（50分）				△限目（50分）	
準備等 （10分）	生徒質問調査 （20分程度）	ヘッドセット 交換	英語「聞くこと」 （20分程度）	休憩 （10分）	英語「読むこと」「書くこと」 （50分程度）	

★グループC（更に2グループに分け、4グループで実施することも可能）

	○限目（50分）			△限目（50分）	
準備等 （10分）	英語「読むこと」「書くこと」 （50分程度）		休憩 （10分）	英語「聞くこと」・生徒質問調査 （50分程度）	

※休憩前後でヘッドセットを交換

(5) 「話すこと」調査の具体的な実施モデル：時間割例

<考え方>

- 各学校におけるヘッドセット保有数が1/3以上になるように配布します。それに加え、学校で保有するヘッドセットを追加で使用していただくことも可能です。
- 各学校のヘッドセット保有数や教室の確保状況によって、以下のいずれかで実施いただくこととなります。
 - 【実施モデル①】グループに分けずに実施（ヘッドセットを調査対象生徒全員分保有している場合）
 - 【実施モデル②】調査対象生徒を2グループに分けて実施（調査対象生徒の1/2分を保有している場合）
 - 【実施モデル③】調査対象生徒を3グループに分けて実施（調査対象生徒の1/3分を保有している場合）
- 「話すこと」調査は、所要時間20分程度であり、これに加えて教室移動等の時間が必要となります。（※）
- 既に実施した生徒から未実施の生徒に問題内容が伝わらないように十分に留意してください。特に【実施モデル③】においては、間の休憩の際に生徒が話さないよう注意してください。

（※）ネットワーク環境等の理由により、問題のダウンロード、録音音声のアップロードに時間を要する場合や、学校の構造により、教室移動に追加で時間を要する場合は、その時間を考慮して、時間割を検討ください。

<時間割例>

	○時限目(50分)				○時限目(50分)			
	前半		後半		前半		後半	
	調査内容	ヘッドセット	調査内容	ヘッドセット	調査内容	ヘッドセット	調査内容	ヘッドセット
グループA	英語「話すこと」	○	-					
グループB	【実施モデル①】		英語「話すこと」	○				
グループC			【実施モデル②】		英語「話すこと」	○		

【実施モデル③】

事前準備のポイント

- **学校のネットワークや使用する端末に不具合がないか。**
特に、中学校英語で使用するヘッドセット・イヤホンが問題なく使用できるか、ご確認ください。
- **フィルタリングソフトによる影響がないか。**
中学校においては事前検証で、小学校においては事前接続テストで、MEXCBTにて画像や動画が問題なく表示されることを必ずご確認ください。
- **英語「書くこと」調査でタイピングでの入力に向けた準備ができているか。**
生徒の資質・能力がCBT調査でも発揮できるよう、英文のタイピング入力等に取り組む機会を設けるなど、工夫しておくことが望ましいです。

<参考> 令和8年度全国学力・学習状況調査CBTでの実施に向けた各小中学校での準備について
(「令和8年度全国学力・学習状況調査」担当者会議(令和7年12月12日開催)資料2-3)

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku-chousa/zenkoku/mext_00002.html

学校のネットワーク・端末の確認

令和7年度CBT試行・検証で見られたトラブル例

全国の小・中学生約4,000人を対象として、オンライン方式での調査に向けた学校のICT環境、実施方法や学校支援方策、問題等について、令和7年度に試行・検証を実施したところ、以下のようなトラブルが見られた。

なお、令和7年度中・令和8年度当初に端末更新を行う場合、更新後の端末において、以下のトラブルが発生しないかに留意することが重要となる。

ネットワークのトラブル例

- ・回線速度が遅く、問題ページの移動に時間がかかることやページ更新が複数回必要となった。

端末のトラブル例

- ・キーボードが故障しており、入力できない文字がある生徒がいた。
- ・端末のマイク機能が故障しており、録音できなかった。
- ・OSのアップデートがされていなかったため、途中で複数回端末の動作が止まった。
- ・故障した端末の修理が出来ておらず、校内で端末が不足していた。
- ・カメラが起動せず、調査に必要なQRコードの読み込みができなかった



フィルタリングのトラブル例

- ・フィルタリングの影響で、問題の画像や動画が表示されず、複数の教育委員会・学校で調査が実施できなかった

担当者会議資料 2 – 3「令和8年度全国学力・学習状況調査CBTでの実施に向けた各小中学校での準備について」を確認し、不具合の解消を進めてください。

<参考> 令和8年度全国学力・学習状況調査CBTでの実施に向けた各小中学校での準備について
（「令和8年度全国学力・学習状況調査」担当者会議（令和7年12月12日開催）資料 2 – 3）
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku-chousa/zenkoku/mext_00002.html

調査実施時のトラブル例

- ・ヘッドセットの端子がしっかり挿入されておらず、音声再生や録音に支障が生じた。
- ・端末を自宅に忘れた生徒について、調査が実施できなかった。

調査実施本番で気を付けるべきポイントについては、実施マニュアルでまとめます。

サンプル問題（中学校英語）の利用

必要な事前準備

✓ MEXCBT上に公開されている**サンプル問題に積極的に取り組んでください。**

「令和7年度以降の全国学力・学習状況調査(悉皆調査)CBTでの実施について(令和6年9月改定)」(令和6年9月文部科学省総合教育政策局参事官(調査企画担当)付学力調査室)において、「生徒や教師が端末を用いた調査に円滑に移行できるよう、各学校においてサンプル問題にMEXCBT上で取り組めるような環境を整備する。」としています。

これを踏まえ、文部科学省・国立教育政策研究所において
サンプル問題（中学校英語）を作成し、MEXCBT上に公開しました。

生徒や教師が端末を用いた調査を円滑に実施できるようにするため、過去に出題された問題を基にMEXCBTに搭載し、本番の調査問題で使用される可能性のある解答方式を一通り含めるようにしています。このことをご理解いただいた上で本サンプル問題をご利用いただくようお願いします。

	公開日	公開内容
第1弾	令和7年10月10日	サンプル問題（通常版）【11問】 （「読むこと」2問、「書くこと」2問、「聞くこと」3問、「話すこと」4問） ※ 本番の調査問題で使用される可能性のある解答方式を含む様々な問題を準備しています。
第2弾	令和8年1月16日	特別な配慮を必要とする生徒のための問題 （拡大文字問題・ルビ振り問題・スクリプト表示問題（「話すこと」のみ） ※ 内容は基本的にサンプル問題（通常版）を活用しています。

2月の事前検証では、10月に公開した合計11問のサンプル問題のうち、「書くこと」「話すこと」それぞれ1問のみを抜粋して実います。
普段の授業や家庭学習等において、公開している全てのサンプル問題を積極的に取り組んでいただくよう、指導をお願いします。

事前検証(中学校)の実施

✓ **英語調査に向けた事前検証（全中学校の全生徒）の実施**をお願いします。



英語調査に向けた事前検証（令和8年度調査と同じ環境で類似問題を用いて検証するもの）

【時期】令和8年2月5日（木）～3月中旬の任意の日（3月に端末更新する場合は、4月に実施することも可能とする）。

【対象】**令和8年度全国学力・学習状況調査に参加する全中学校の全生徒(現中学2年生)**

【内容】**事前検証問題プログラムをMEXCBTで実施**

- ・ サンプル問題のうち、「書くこと」1問、「話すこと」1問を抜粋した、**事前検証問題**を実施。
- ・ **本番調査で実際に使用する端末、ヘッドセット・イヤホンを使って、検証を行う。**
- ・ 問題の閲覧、解答の吹込み、録音データのアップロードが正常に完了できるかを確認する。
（**本番と同様にグループを分けて、ローテーションを行う想定**）。
- ・ 1グループあたり15分程度（教室移動・準備5分、事前検証10分）

(7) 特別な配慮

令和8年度調査の中学校「英語」における特別な配慮が必要な生徒への対応は以下のとおりです。従来と同様、各学校の判断により、当該生徒の障害の種類や程度に応じた配慮が可能です。加えて、各学校において以下のような配慮をすることも考えられます。

- 必要に応じて、付添者が、端末画面に表示されている文字を音読し、生徒から解答を聴き取り代理入力するといった対応（口頭解答をするため別室で実施）。
- 必要に応じて生徒が日常使用している入出力支援装置、端末のアクセシビリティ機能(※)の活用。ただし、テキストデータではなく画像データにより問題文を示す設問など、これらの装置等に対応できない設問もあることに留意。

主な対象	中学校英語における調査資材	調査問題冊子・解答用紙
視覚障害のある生徒	拡大文字問題プログラム (解答時間延長)	CBTで作成・配信【4技能で作成】 ※代理解答可
	点字問題冊子 (解答時間延長)	PBTで作成・配布【4技能で作成】 ※「聞くこと」は、CDにて音声を聞き取り、 点字問題冊子で回答 「話すこと」は、点字問題冊子で補足情報 を読み取り、MEXCBTにて解答を録音 ※代理解答可
聴覚障害のある生徒 ※ただし、右耳・左耳それぞれ平均聴 力レベル60dB以上の生徒は、「聞くこ と」及び「話すこと」に関する調査の 対象としないこととすることも可。	スクリプト表示問題プログラム ※ 問題音声の内容が画面上に 文字として表示されるもの	CBTで作成・配信【「話すこと」のみ】 ※代理解答可
発話に困難さがある生徒	代筆解答プログラム	CBTで作成・配信【「話すこと」のみ】
肢体不自由・病弱等 その他の障害のある生徒	時間延長問題プログラム (解答時間延長)	CBTで作成・配信 ※代理解答可
日本語指導が必要な生徒	ルビ振り問題プログラム (解答時間延長)	CBTで作成・配信【4技能で作成】

(※)音声読み上げ、ピンチ操作、反転・リフロー表示、フォント・コントラスト変更等

【参考】令和7年度全国学力・学習状況調査実施概況

○支援が必要な児童生徒の参加状況

※ 令和7年5月13日付け事務連絡にて依頼した「実施後アンケート」の集計結果（速報値）。

小学校（回収率：65.7%）			中学校（回収率：62.3%）		
長期欠席児童	障害がある児童	日本語指導が必要な児童	長期欠席生徒	障害がある生徒	日本語指導が必要な生徒
11,314人	26,545人	2,626人	14,893人	8,322人	1,635人

○小学校・義務教育学校・特別支援学校（全国）

※1 令和7年4月8日時点における学校数。

※2 該当解答（回答）用紙を提出した（またはオンライン方式で回答した）児童生徒数。

	学校数			児童数 ※2			
	調査対象者 在籍学校数 ※1	実施数	実施率 (%)	国語	算数	理科	質問
小学校	18,221	18,090	99.3	956,444	956,573	956,629	939,981
義務教育学校 (前期課程)	255	253	99.2	9,369	9,379	9,386	9,232
特別支援学校 (小学部)	163	149	91.4	356	352	357	357
計	18,639	18,492	99.2	966,169	966,304	966,372	949,570

○中学校・義務教育学校・中等教育学校・特別支援学校（全国）

	学校数			生徒数 ※2			
	調査対象者 在籍学校数 ※1	実施数	実施率 (%)	国語	数学	理科	質問
中学校	9,675	9,118	94.2	889,628	890,167	888,704	889,575
義務教育学校 (後期課程)	262	261	99.6	9,250	9,255	9,235	9,245
中等教育学校 (前期課程)	59	49	83.1	5,112	5,118	5,120	5,114
特別支援学校 (中学部)	198	183	92.4	473	468	469	479
計	10,194	9,611	94.3	904,463	905,008	903,528	904,413

【参考】CBT配慮版問題プログラム 使用実績

主な対象	調査資材	令和5年度英語「話すこと」		令和7年度理科	
		実施人数	当日実施分	実施人数	当日実施分
視覚障害のある生徒	拡大文字問題プログラム	120	7	370	361
	点字問題冊子 ※ 英語「話すこと」の解答はCBTで録音	40	6	20	20
聴覚障害のある生徒 ※右耳・左耳それぞれ平均聴力レベル60dB以上の生徒は、「聞くこと」「話すこと」調査の対象としないことも可。	スクリプト表示問題プログラム ※ 問題音声の内容が冊子・画面上に文字として表示されるもの	246	15	-	
発話に困難さがある生徒	代筆解答プログラム	46	3	-	
肢体不自由・病弱等 その他の障害のある生徒	時間延長問題プログラム	169	7	115	108
日本語指導が必要な生徒	ルビ振り問題プログラム	1,431	273	10,949	10,810
上記以外	通常問題プログラム	903,318	46,878	892,074	878,868
合 計		905,370	47,189	903,528	890,167

- ✓ CBT化により配慮問題プログラムを柔軟に配信・利用できるようになったことがわかる。
- ✓ 通常問題においても、一定数がMEXCBTの文字の拡大機能を利用していると考えられる。

4. 小学校児童質問調査の実施に向けた事前準備について

事前接続テスト(小学校)の実施



✓ **小学校における児童質問調査に向けた事前接続テスト（教員 1 名）の実施**をお願いします。

小学校における児童質問調査に向けた事前接続テスト（MEXCBT）

【時期】令和 8 年 2 月 5 日（木）～3月31日（火）の任意の日

→ 当該学校の都合のよい日程で実施（接続テスト実施日については、特段の報告不要）

【対象】**令和 8 年度全国学力・学習状況調査に参加する全小学校の教員 1 名**

【内容】MEXCBT接続テスト問題をMEXCBTで実施

教員が児童質問調査で実際に使用する児童の端末を使用して、問題の配信や調査実施、画像の閲覧が適切に行えるか確認する。

5. 学校外からの参加について

- 令和8年度全国学力・学習状況調査は、中学校英語及び小・中学校児童生徒質問調査を、オンライン方式(CBT)で実施する予定です。
- 一人一台端末を使用すれば、電子データにより問題・解答を配信・回収できるため、CBTで実施する調査は、通常実施時に欠席等により調査を実施できなかった生徒に対して、**自宅、病院、教育支援センター等において後日実施することも可能**です。

令和8年度 CBT調査日程

調査事項		日程	
		通常実施	後日実施
(中)英語	聞く・読む・書くこと	4/20(月)～23(木) 予備日：4/24(金)	4/27(月)～5/1(金) (学校外でオンライン実施可)
	話すこと	当日実施：4/24(金)・27(月) (全国から500校抽出) 期間内実施：4/28(火)～5/29(金) (学校外でオンライン実施可)	
(小)児童質問調査		4/24(金)～5/8(金)	調査実施日翌日～5/8(金) (学校外でオンライン実施可)
(中)生徒質問調査		4/20(月)～23(木) 予備日：4/24(金)	4/27(月)～5/8(金) (学校外でオンライン実施可)

令和7年度学校外参加実績
(アンケート集計結果より)
小学校児童：2,887人
回収率65.7%
中学校生徒：1,639人
回収率62.3%

【文部科学省 HP】令和8年度の調査実施
(主な通知・事務連絡を随時掲載)
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku-chousa/zenkoku/1417152_00016.htm

参加に向けた準備

- ① 調査に使用する端末の検討及び準備。
- ② 調査に参加する場所の検討及び事前検証でのネットワーク・ヘッドセット等の確認。

児童生徒がそれぞれの状況に応じて柔軟に調査に参加できるよう、教育委員会・学校と保護者・病院・教育支援センター等の連携をお願いします。